

平成10年度 特別陳列

榎坂郷蔵人村の日々

— 中世村落の考古学 —

平成10年10月24日(土)～12月6日(日)

●開館時間／午前9時30分～午後5時

●休館日／月曜日・祝日の翌日

(ただし、11月23日は開館)

●観覧料／大人 200円 (160円)

高大生 100円 (80円)

小中生 50円 (40円)

* ()内は20名以上の団体割引料金

* 第2・4土曜日は市内小中学生は無料

講演会 11月1日(日) 午後2時／当館講義室
「中世の村を歩く ― 垂水荘と蔵人村 ―」

講師：財大阪府文化財調査研究センター

鋤柄俊夫氏

展示解説 11月15日(日) 午後2時／当館特別展示室



菊花散双雀鏡（蔵人遺跡）

吹田市立博物館

大阪府吹田市岸部北4丁目10番1号 TEL.06-338-5500

平成10年度 特別陳列

榎坂郷蔵人村の日々

— 中世村落の考古学 —

榎坂郷蔵人村。現在は近代的なビル群となり、市内でも最も繁華な街として賑わう江坂のやや西方の地に、今から約700年前、その村はありました。蔵人村は、弘仁3年(812)に東寺に施入された垂水荘内の村落で、歴史学では、この集落は鎌倉時代初め頃、千里丘陵裾部沿いに居住していた榎坂郷の農民が、鎌倉時代後半になってその出作地に定住して形成したといわれ、蔵人村は屋敷地が孤立分散的な散村から屋敷群としてまとまりをみせる集村へと移行する中世村落の典型として著名です。

蔵人村の故地にあたる江坂町2丁目から豊津町のあたりには、弥生時代から室町時代にかけての複合集落遺跡である蔵人遺跡があります。平成9年度までに21次にわたる発掘調査を重ね、特に中世期については、掘立柱建物・井戸・鍛冶工房・石組み溝・耕作地・池・河道などの遺構を検出し、地下に埋もれていた集落の姿が甦りました。遺物には瓦器碗、土師器皿、甕、羽釜といった日常生活に使用された土器のほか、青白磁、漆器、箸、火鉢、下駄、刀子、石硯、宋銭、和鏡、遊具、瓦など多種多様なものがあり、鎌倉～室町時代の村落生活の一端を知ることができます。これら蔵人遺跡の遺構や遺物はまさに中世「蔵人村」に生きた人々が遺したものであり、考古学のみならず、学際的な中世村落研究を可能にする貴重な資料なのです。

この特別陳列は、蔵人遺跡をはじめとし、「垂庄」墨書土器が出土し、垂水荘立荘時における東寺の積極的な開発の様子が窺える垂水南遺跡(垂水町3丁目)、豊嶋郡条里の東限を確認した豊嶋郡条里遺跡(泉町2丁目)など市内の古代～中世の遺跡の発掘調査成果を紹介し、さらに近畿地方を中心とする周辺地域の荘園や村落の遺跡の出土品も交えて展示し、中世の村の様相を考古学によって考えてみようとするものです。平安時代以降の吹田は西国と京とを結ぶ水運の要衝として発展し、皇室、貴族、有力寺社の荘園が数多く設けられた地でもあります。こうした荘園の経営を支えた民衆の生活の息吹を、この展覧会を通じて感じていただければ幸いです。



鍛冶工房跡(蔵人遺跡)

岡本山古墳群出土土器
(高槻市立埋蔵文化財調査センター)小谷遺跡出土丹波三耳甕
(加西市教育委員会)

■交通案内

- JR吹田駅・阪急千里線吹田駅から
桃山台駅前・山田樫切山ゆきバス「佐井寺北」下車徒歩10分
阪急山田・千里中央ゆきバス「岸部」下車徒歩10分
- 阪急千里線南千里駅から
JR吹田ゆきバス②③系統「佐井寺北」下車徒歩10分
- JR東海道本線岸辺駅下車徒歩20分
- 車でのご来館は佐井寺北・五月が丘方面からお願いします。